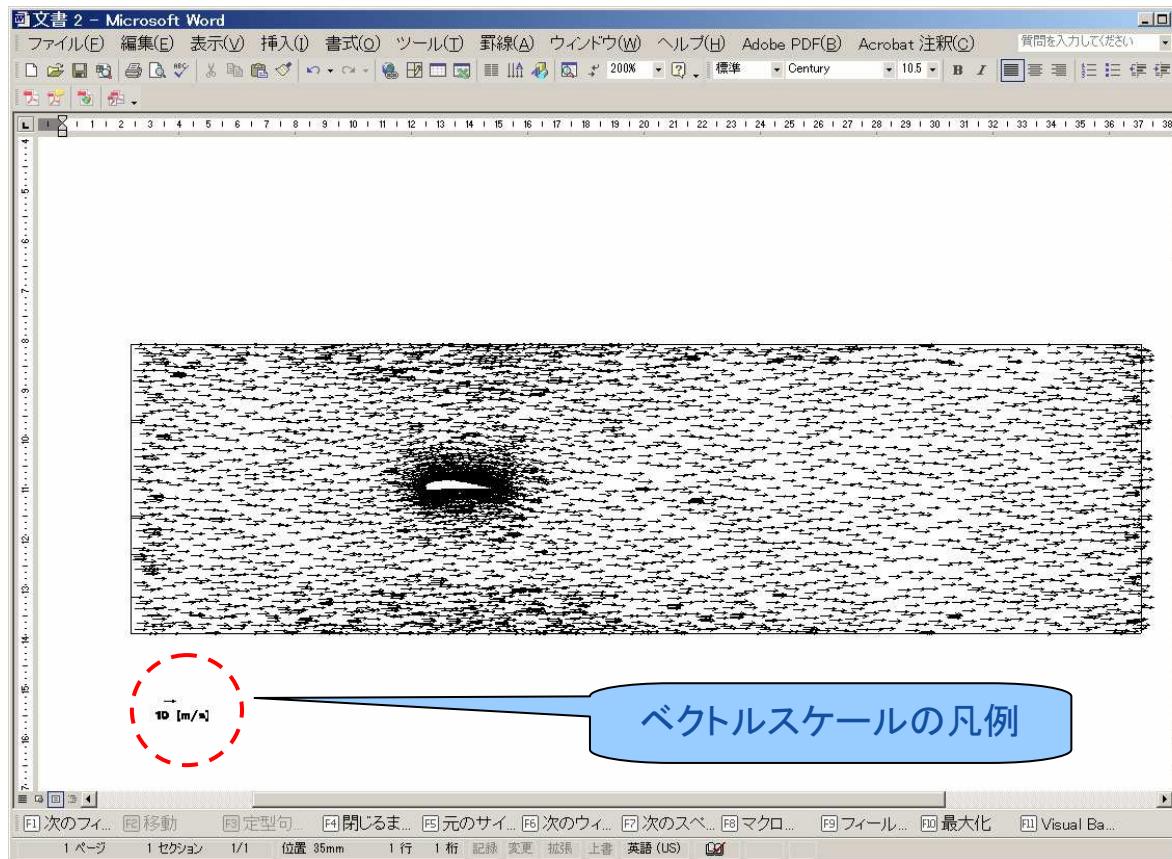


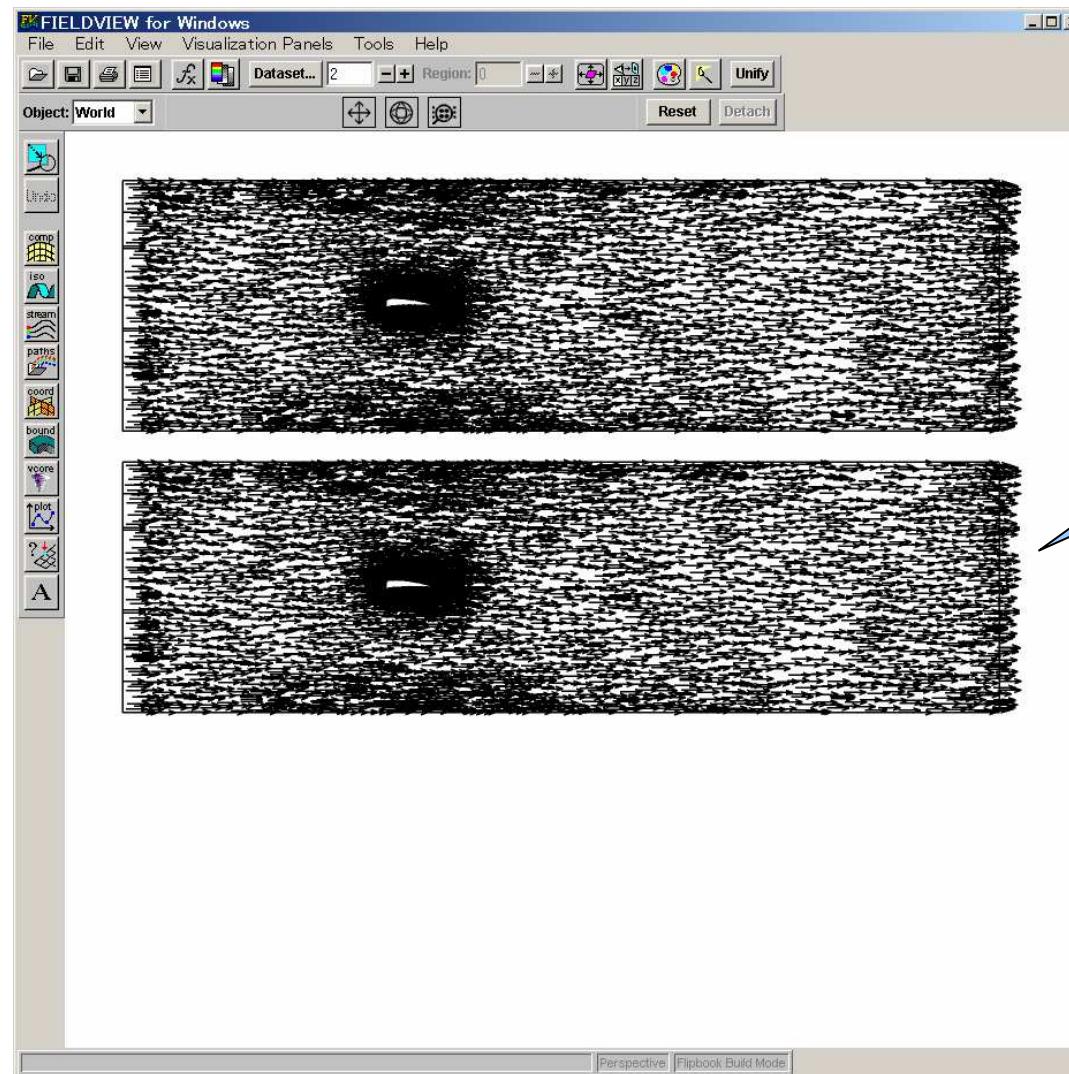
FieldView の基本機能では、ベクトルスケールの凡例を表示することができますが、以下の手順で自作することができます。

* 本資料を読む前に FAQ HT016 もご参照ください。

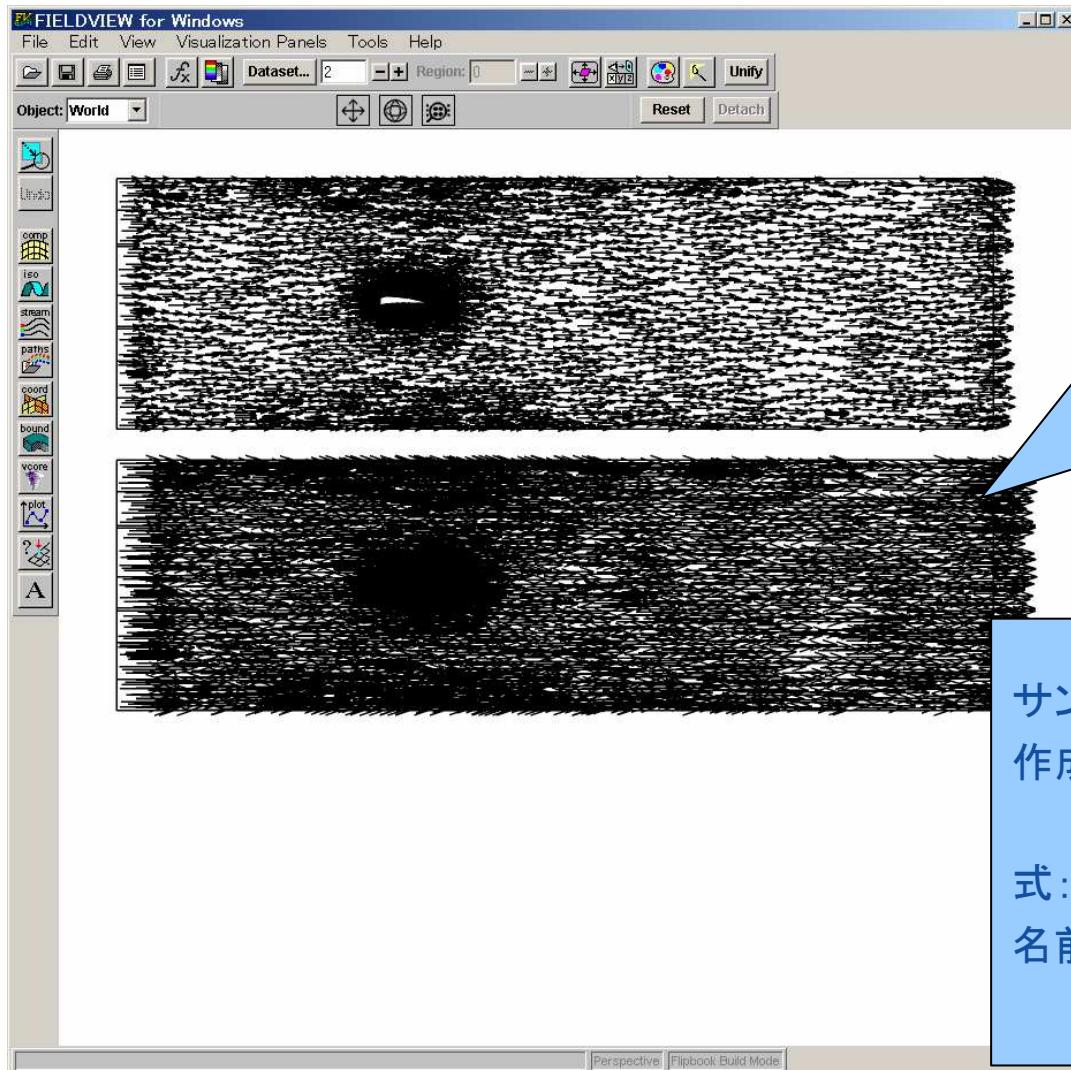


HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

FIELDVIEW



同じデータセットを
append 読み込み
* 表示上 translate



Dataset2について、
ベクトルデータを差し替える

X- 方向 → 一律 1 [m/s]
Y- 方向 → 一律 0 [m/s]
Z- 方向 → 一律 0 [m/s]

サンプルファイルでの
作成関数は

式:UnitX*1+ UnitY*0+ UnitZ*0
名前:X-vec

FieldView サポートページの

“HT016 複数データセット間でベクトルスケールを統一させる方法”

<http://www.vinas.com/jp/support/fieldview/howto/ht016.htm>

の内容を参照する

HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

HT016 の手法に従い、以下を整理します。

スケール量 N をデータセット毎に算出することで、ベクトルスケールを調整できます。

スケール比: N_1/N_2

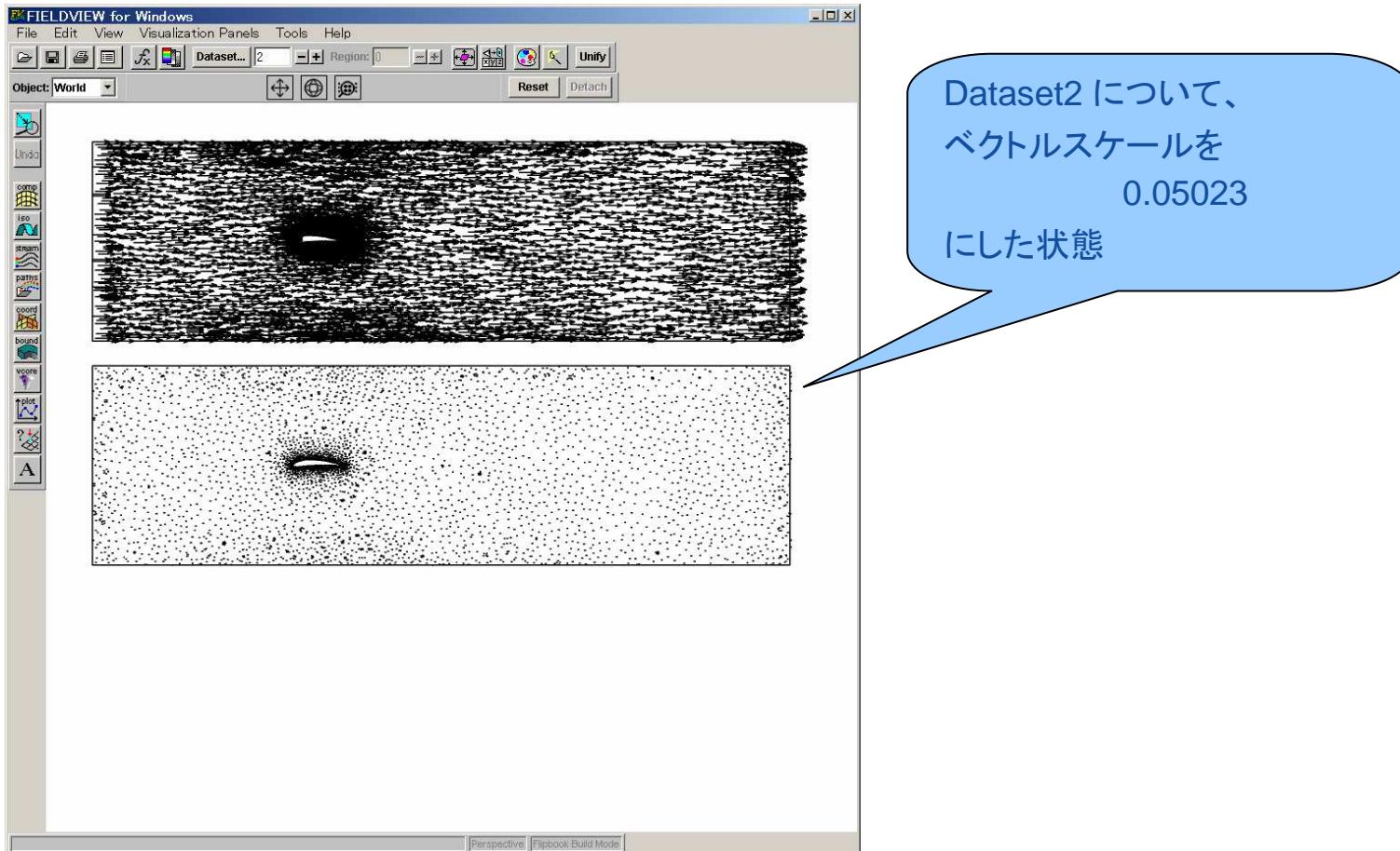
N_1, N_2 はそれぞれ、dataset 1, dataset2 のスケール量です。

サンプルデータで、以下、数字を比較。

	$ u _{\max}$	$ v _{\max}$	$ w _{\max}$	N
dataset 01	13.2933	1.276	5.33906	19.90836
dataset 02	1	0	0	1

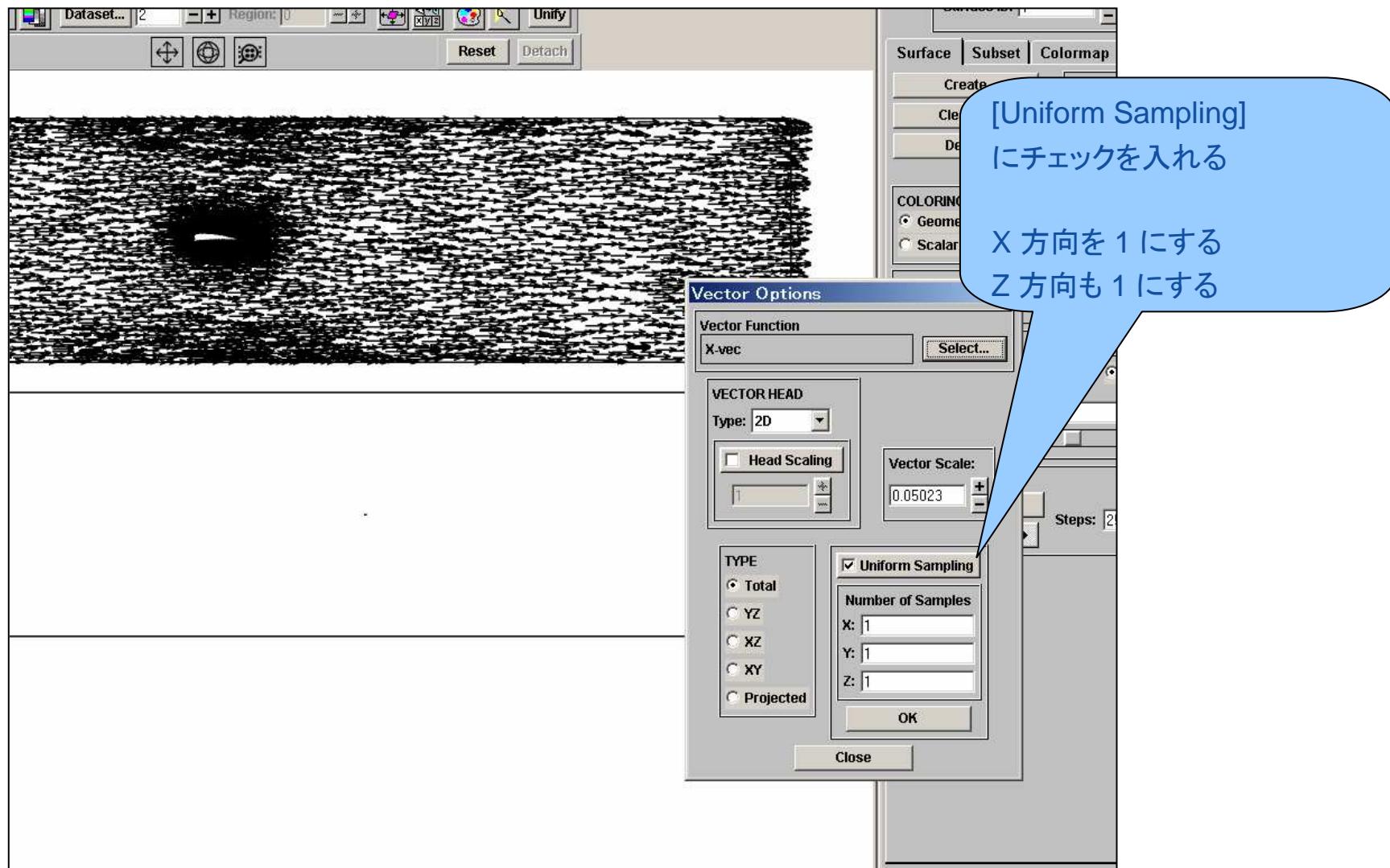
$$\begin{aligned}\text{スケール比: } N_1/N_2 &= 19.90836/1 \\ &= \mathbf{19.90836}\end{aligned}$$

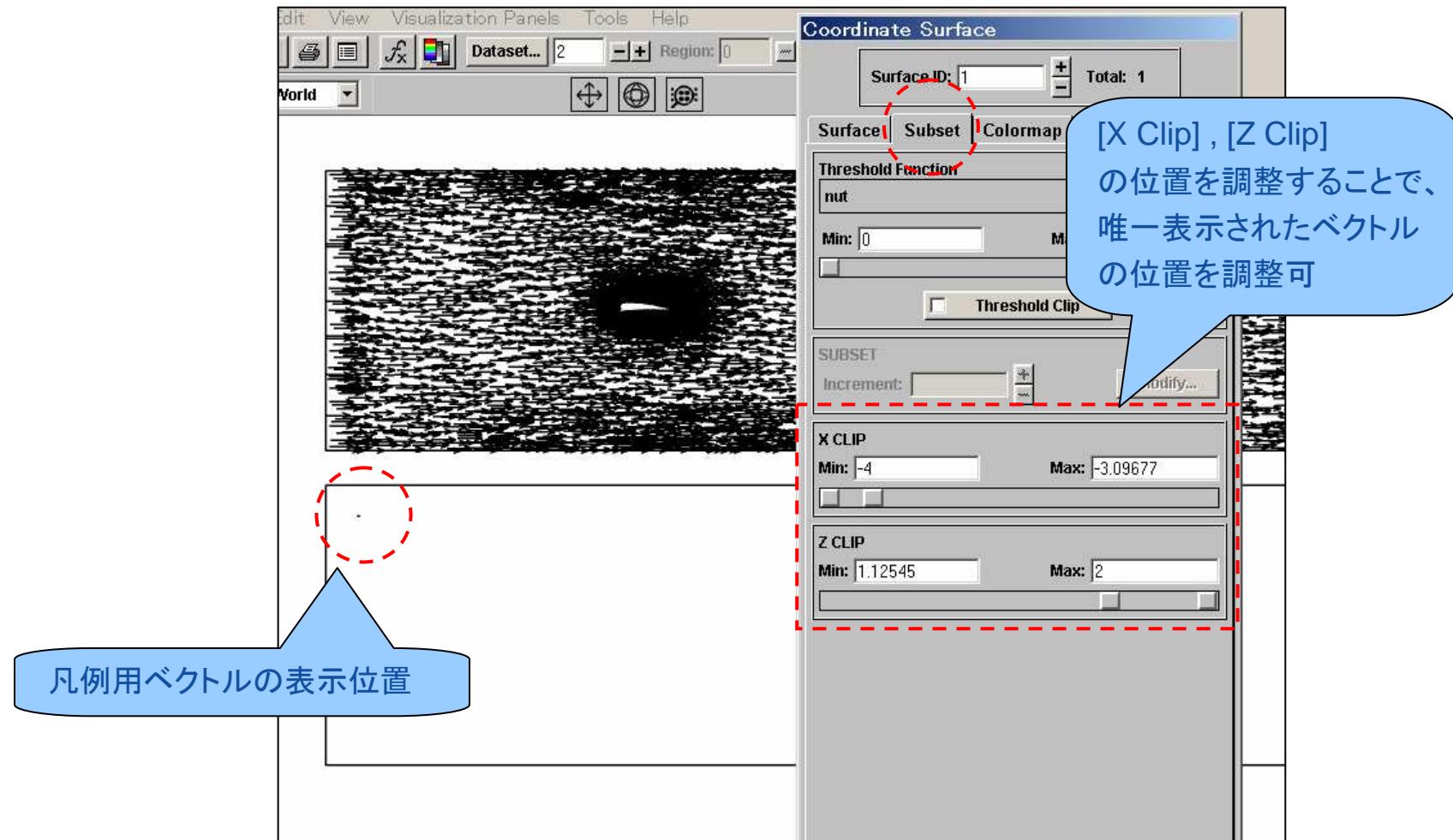
サンプルデータでは dataset01 側の ベクトルスケールを **19.90836** に調整、
あるいは dataset02 側のベクトルスケールを **0.050230** に調整します



HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

FIELDVIEW

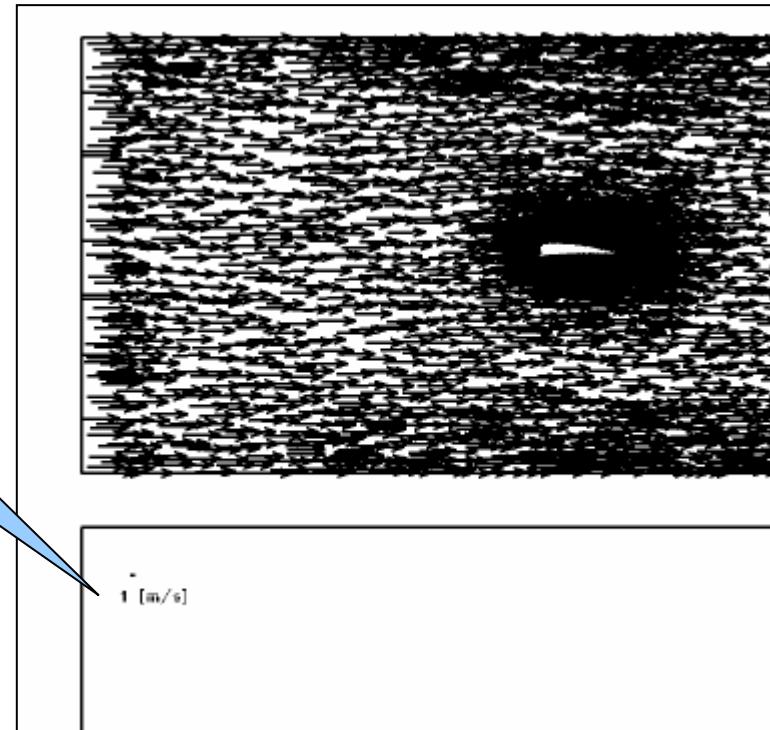




Annotation 機能で

“ 1 [m/s] ”

のような文字をいれておく

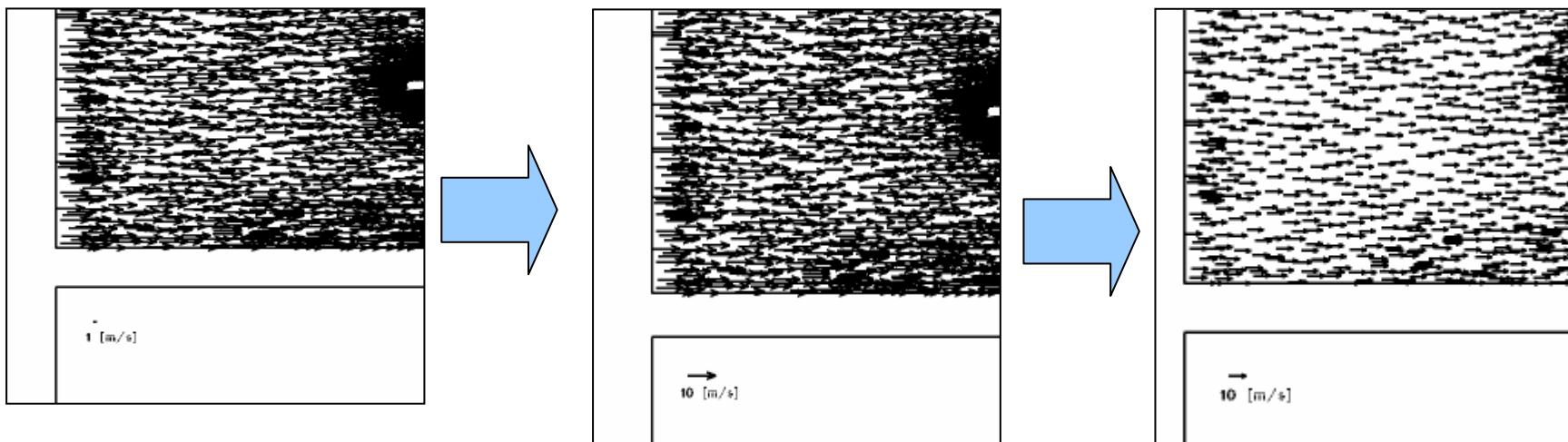


前ページの状態では、凡例が小さすぎるので、

凡例用ベクトル関数を $\text{UnitX} * 10 + \text{UnitY} * 0 + \text{UnitZ} * 0$

とし、dataset02 側のベクトルスケールを **0.50230** に調整すると、より見やすくなります。

* もちろん annotation も、設定に応じて 10[m/s] と書き換えます。



Dataset01 scale : 1

Dataset02 scale: 0.050230

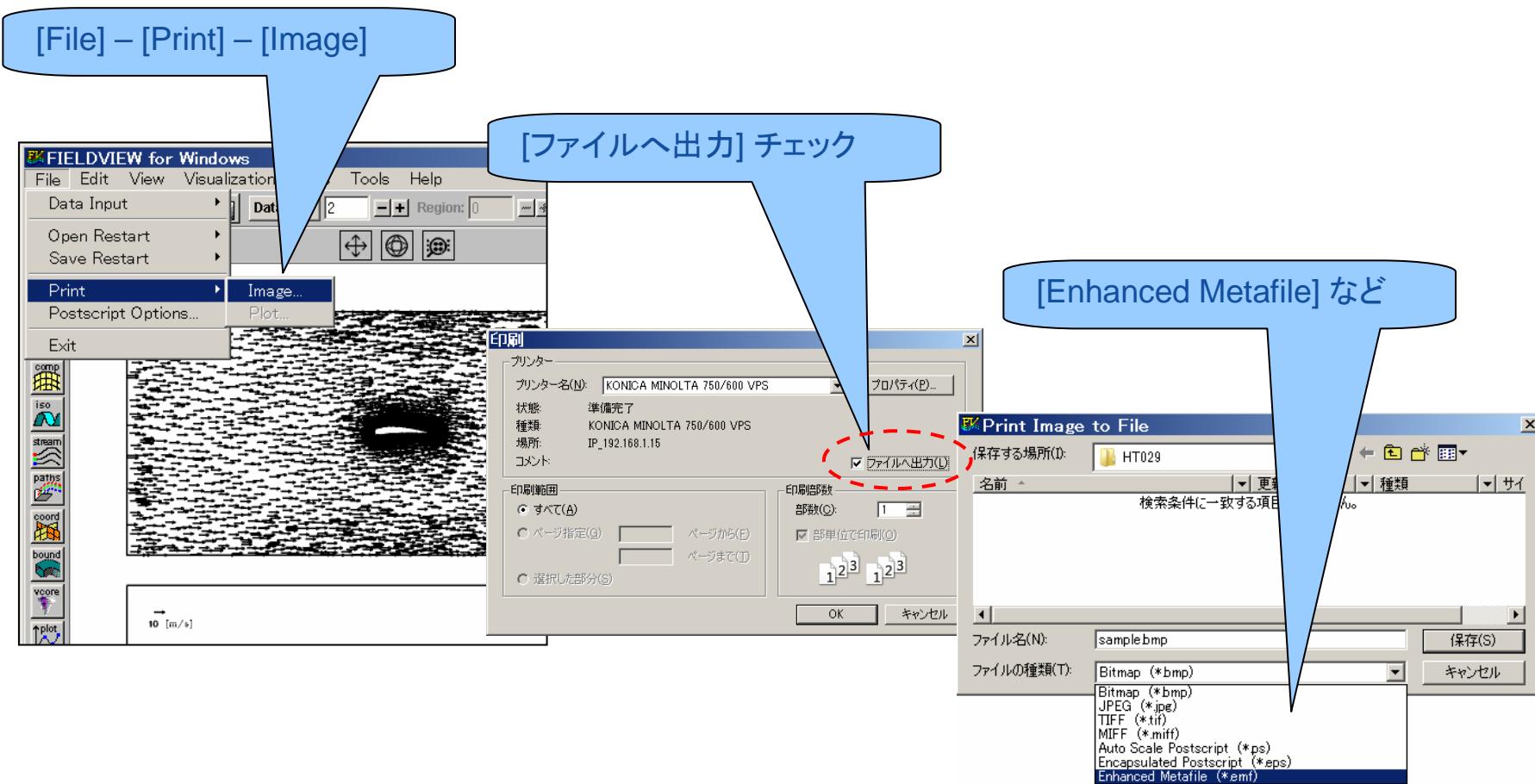
Dataset01 scale : 1

Dataset02 scale: 0.50230

Dataset01 scale : 0.5

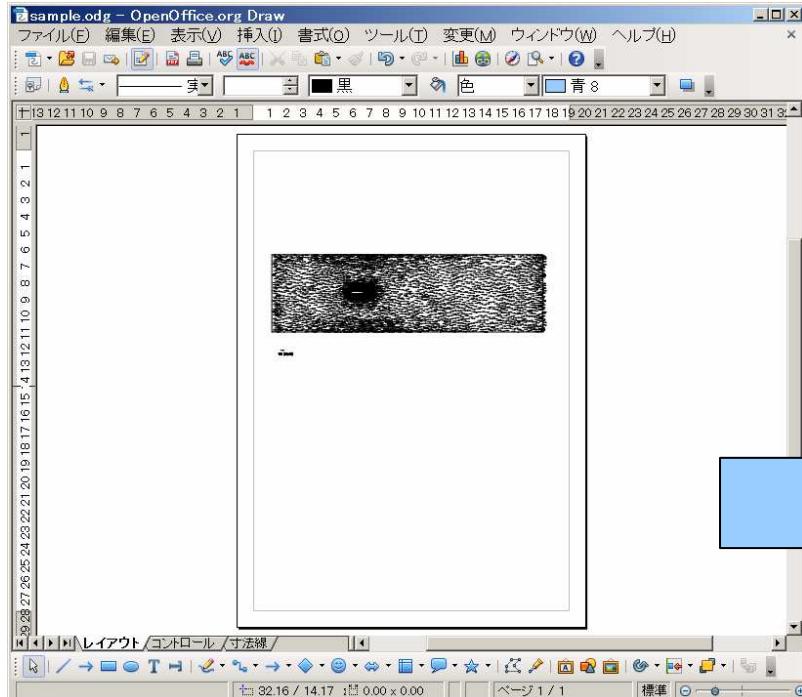
Dataset02 scale: 0.25115

報告書図面などへの加工する場合は、eps ファイルや、emf ファイルなどのようなベクトル形式のデータを使うと扱いが楽になります。



以下は OpenOffice Draw (フリーのドロー系ソフトウェア) で emf ファイルを読み込んだ例です

* OpenOffice Draw の操作についてはサポート外ですので、ご容赦ください。



Dataset2 の Outline を削除し、eps 保存した例

MS word に eps ファイルを読み込んだ例

